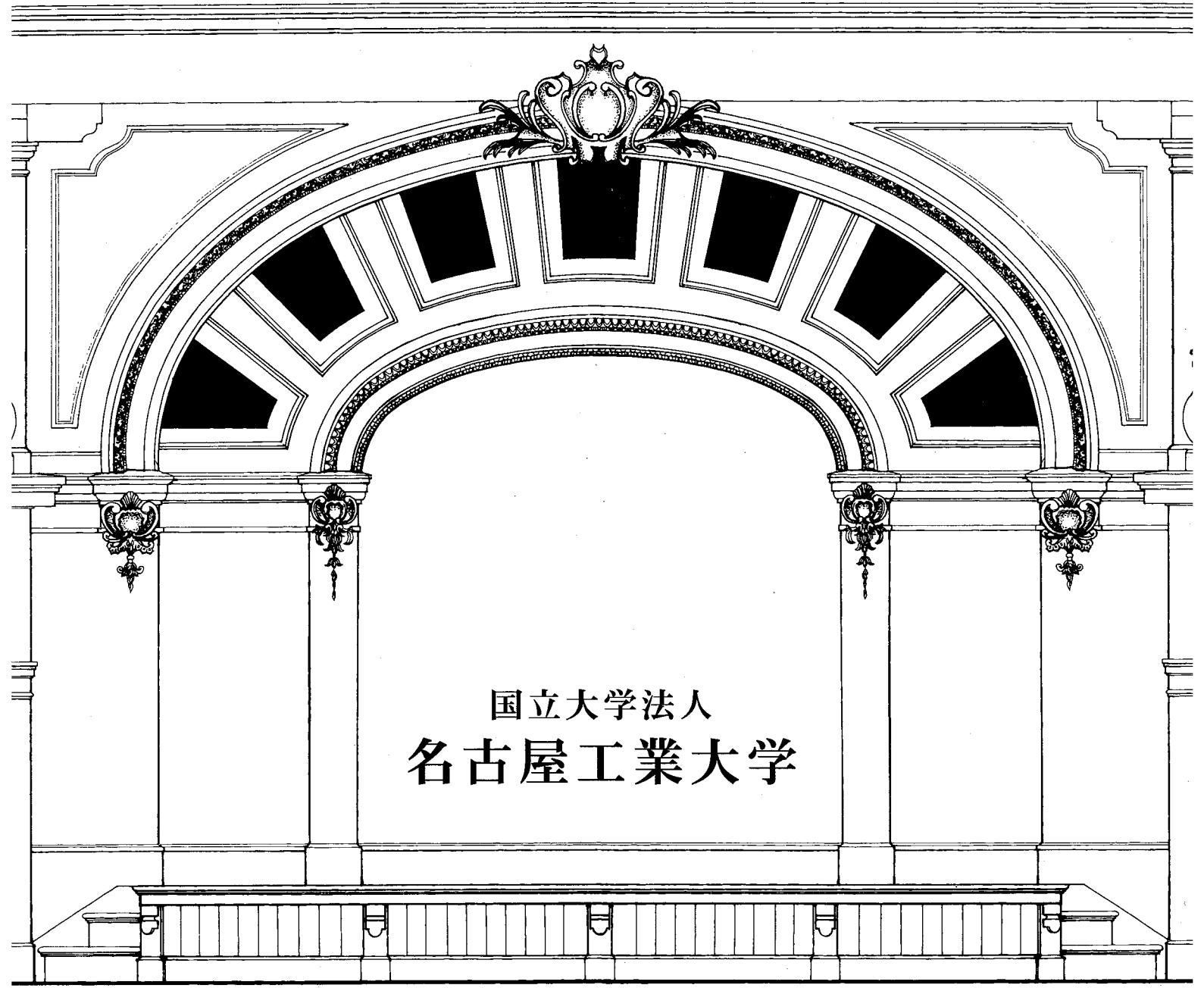


平成 24 年度
工学部 第一部
編入学・転入学

学生募集要項



国立大学法人
名古屋工業大学

目 次

平成24年度 工学部第一部編入学・転入学入試学生募集要項

アドミッション・ポリシー	1
1 募集学科及び募集人員	1
2 出 願 資 格	2
3 編入学・転入学年次, 修業年限及び単位の認定	2
4 出 願 期 間	2
5 出 願 手 続	2
6 受験票の送付	4
7 障害を有する者の出願	4
8 入学者選抜方法	4
9 学 力 検 査 場	5
10 合格者発表及び入学手続	5
11 入学手続時に必要な経費	5
12 入 試 情 報	5
13 留 意 事 項	6
14 問 い 合 わ せ 先	7
別表 物理・化学の指定・選択, 専門試験科目	8
学 科 紹 介	9
検定料の払込方法	12
本学への交通案内	裏表紙

アドミッション・ポリシー

名古屋工業大学では、「ひとづくり」、「ものづくり」、「未来づくり」を教育・研究の理念・目標に掲げ、100年にわたる伝統の上に新たな風を吹き込む努力を続けており、倫理観に裏打ちされた人間性豊かな研究者・技術者を育成しています。そこで、次のような学生を広く国内外から受け入れています。

1. 工学や科学技術に幅広く強い関心を持ち、その学習に特に必要となる数学と理科の基礎学力をもつ人
2. 知的探究心が旺盛で、自ら新しい課題を見つけ挑戦し、ものやしくみを創造する意欲をもつ人
3. 将来は研究者・技術者として、自然との共生の上に人類の幸福に貢献する意欲をもつ人

1 募集学科及び募集人員

募 集 学 科	教育プログラム	募集人員
生 命 ・ 物 質 工 学 科	物質化学系プログラム	若干名
	生物生命系プログラム	
	生体材料系プログラム	
環 境 材 料 工 学 科	セラミックス系プログラム	若干名
	材料機能系プログラム	
機 械 工 学 科	計測系プログラム	若干名
	機構系プログラム	
	エネルギー系プログラム	
電 気 電 子 工 学 科	機能電子系プログラム	若干名
	エネルギーデザイン系プログラム	
	通信系プログラム	
情 報 工 学 科	ネットワーク系プログラム	若干名
	知能系プログラム	
	メディア系プログラム	
建 築 ・ デ ザ イン 工 学 科	建築系プログラム	若干名
	デザイン系プログラム	
都 市 社 会 工 学 科	環境都市系プログラム	若干名
	経営システム系プログラム	

注：募集人員の若干名には、3年次編入学定員10人を含みます。

2 出 願 資 格

(1) 編入学を志願できる者は、次の各号のいずれかに該当する者

ア 大学を卒業した者及び平成24年3月卒業見込みの者

イ 短期大学又は高等専門学校を卒業した者及び平成24年3月卒業見込みの者

ウ 旧国立工業教員養成所を卒業した者

エ 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者及び平成24年3月修了見込みの者

注：上記エの文部科学大臣の定める基準は、修業年限が2年以上で、かつ、課程の修了に必要な総授業時数が1,700時間以上であること。

(2) 転入学を志願できる者は、他の大学の学生で、当該大学の学長又は学部長の承認を得た者で、次の各号のいずれにも該当する者

ア 転入学しなければならないやむを得ない事情があること。

イ 現に在学する大学に2年以上（平成24年3月現在）在学し、修得した単位数が62単位以上（修得見込みを含む。）の者であること。

注：5ページの10合格者発表及び入学手続(3)に留意すること。

3 編入学・転入学年次、修業年限及び単位の認定

(1) 編入学・転入学年次 第3年次とします。

(2) 修業年限 2年とします。

(3) 単位の認定 入学後に、大学、短期大学、高等専門学校等で修得した単位の認定を行います。科目によってはその単位を認定しないこともあります。

なお、単位認定状況及び修学状況によっては、本学の卒業に前記(2)の修業年限を超える年数を要することがあります。

4 出 願 期 間

平成23年5月30日(月)から6月3日(金)まで

5 出 願 手 続

(1) 出願書類等の提出

入学志願者は、次の出願書類等を取りそろえ、角形2号（縦33.2cm×横24cm）の封筒を用い、書留速達で、6月3日(金)までに到着するよう郵送してください。

なお、6月3日までの消印のあるものは受け付けます。封筒の表面に「第一部（編入学又は転入学）願書在中」と朱書きしてください。

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町^{ごきそちよう}
名古屋工業大学 入試室

(2) 出願書類等

ア 入学願書, 写真票, 受験票 (本学所定の用紙)

イ 成績証明書

出身学校の学長, 学部長又は校長が発行し, 厳封したもの。

ウ 検定料 30,000 円

検定料は, 12 ページの「検定料の払込方法」を参照の上, ゆうちょ銀行・郵便局の窓口で払い込んでください。

エ 受験票送付用封筒 (長形 3 号, 23.5cm×12cm)

郵便番号, 受信先を明記し, 郵便切手 (350 円) を貼り付けてください。

オ 連絡用シール (本学所定の用紙)

入学願書に記載してある「受信場所」と同一の住所を記入してください。

カ その他

(ア) 編入学志願者は, 卒業 (見込) 証明書

(イ) 転入学志願者は, 転入学事由書 (本学所定の用紙) 及び在学する大学の学長又は学部長が発行する受験許可書 (様式随意)

(3) 注意事項

ア 出願書類等の不備なものは, 受理しません。

イ 出願書類の受理後は, 出願事項の変更を認めません。

ウ 提出された出願書類等は, 返還しません。

エ 既納の検定料は, 返還しません。

オ 出願書類に虚偽の記載をしたことが判明した場合は, 入学後でも入学を取り消すことがあります。

カ 各学科には, 複数の教育プログラムが用意されています。志望学科に併せてその学科にある教育プログラムを希望して出願することになりますので, 入学願書の教育プログラムの希望欄を次により記入してください。

1. 生命・物質工学科, 環境材料工学科, 電気電子工学科, 情報工学科に出願する場合
出願する学科にある教育プログラムを希望する順位で記入してください。(第 1 希望以外の教育プログラムで, 合格となる場合があります。)

2. 機械工学科, 建築・デザイン工学科, 都市社会工学科に出願する場合

出願する学科にある教育プログラムを第 1 希望のみ記入してください。(記入のあった第 1 希望の教育プログラムのみが合格対象となります。)

キ 本学入学者選抜に用いた個人情報については, 「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づいて, 次のとおり取り扱います。

① 今後の入学者選抜に係る調査・研究のために利用します。

② 入学者選抜及び上記①の利用に当たっては, 守秘義務等を締結した業者 (以下「業者」という。) に一部を委託する場合があります。

この場合, この業者に対して委託した業務の範囲内で, 個人情報を提供します。

③ 入学者については, 入学者選抜に用いた個人情報を学籍などの教務関係及び学生支援関係に関する業務を行うため利用します。

6 受験票の送付

受験票は、6月9日(木)に出願者へ発送します。

なお、発送日から4～5日過ぎても受験票が到着しない場合は、本学入試室（7ページ参照）に照会してください。

7 障害を有する者の出願

本学に入学を志願する者で、障害（学校教育法施行令第22条の3に定める障害の程度）がある者は、受験上及び修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、平成23年5月16日(月)までに、本学入試室（7ページ参照）へ申し出てください。

8 入学者選抜方法

入学者の選抜は、学力検査成績、面接及び調査書を総合して判定します。

判定は、A、B、Cの3段階で行います。

なお、下記の学科及び教育プログラムにおいては、次の判定基準を考慮して決定します。

学科名等	判定基準
電気電子工学科	学力検査においては、総合得点の得点率が60%以上を合格の必要条件とする。 (日本技術者教育認定機構(JABEE)の技術者教育プログラムの認定を受けている。)
都市社会工学科 環境都市系プログラム	
情報工学科	学力検査成績に0点が2科目以上あるときは、不合格とする。

(1) 学力検査

試験日時	試験科目
6月23日(木)	10:30～12:00 (90分) 数学 (出題範囲: 微分積分学・線形代数学)
	13:00～14:30 (90分) 英語
	15:00～16:00 (60分) 物理 (出題範囲: 基礎力学, 基礎電磁気学), 化学 (出題範囲: 基礎物理化学, 基礎有機化学, 基礎無機化学) (1科目指定又は選択, 別表(8ページ)参照)
24日(金)	10:00～12:00 (120分) 専門試験 (別表(8ページ)の試験科目を課す。)

注: 物理, 化学の科目選択の場合は, 試験時間中に「物理」又は「化学」のいずれかを選択して解答します。

(2) 面接

6月24日(金)午後, 当該学科において実施します。面接では, 「論理的思考」, 「基礎知識」, 「適性」, 「意欲」について評価します。

9 学力検査場

名古屋工業大学（裏表紙「交通案内」参照）

詳細については、受験票送付の際にお知らせします。

10 合格者発表及び入学手続

(1) 平成23年7月15日(金)12:00、本学2号館前に合格者の受験番号を掲示します（合格者発表についての電話による問い合わせには応じません。）。

なお、合格者には、合格通知書を送付します。

(2) 入学手続は、平成23年12月中旬に行います。

なお、「入学手続要領」等関係書類は、12月上旬に合格者に送付します。

(3) 転入学にあつては、平成24年3月26日(月)までに修得単位数が62単位以上であることを証明する成績証明書を提出すること。

11 入学手続時に必要な経費

入 学 料	282,000円（予定額）
授 業 料	年額 535,800円 （予定額） { 前期分 267,900円 後期分 267,900円

注1：入学料及び授業料については、入学時及び在学中に改定が行われた場合には、新入学料及び新授業料が適用されます。

2：授業料は、希望により前期分を納入の際に後期分も併せて納入できる制度があります。

3：授業料（前期分）を入学手続時に納入しない場合は、平成24年4月2日(月)から4月27日(金)までに納入してください。

4：既納の入学料及び授業料は、返還しません。ただし、授業料については、入学手続完了者が、平成24年3月31日(土)までに入学を辞退した場合には、納入した者の申出により当該授業料相当額は後日返還します。

5：入学料及び授業料については、徴収猶予又は、免除の制度があります。

12 入 試 情 報

平成24年度編・転入学に係る入試情報は、次の内容を開示します。

1. 出願状況等

志願者数、受験者数、合格者数、入学者数を本学ホームページ、入試室窓口で提供します。

2. 試験問題等

(1) 試験問題

試験問題は過去3年間分をホームページで公表しています。

ただし、著作権法により開示しない場合があります。

(2) 正解・解答例（ただし、正解・解答例を示すことが困難な問題については、出題意図や評価のポイント）

(3) 開示方法

平成23年7月上旬にホームページで公表します。

3. 試験成績

(1) 受験者本人の請求に基づき、次の事項を開示します。

各科目ごとの得点及び総合評定（A, B, C）

学科ごとの合格最高点, 合格最低点, 合格者の平均点（ただし, 当該学科の合格者が10名以上の場合に限ります。）

(2) 申込方法

試験成績の開示を希望する志願者は, 入学願書の「試験成績開示の希望の有無」欄に希望する旨を記入し, 試験成績送付用封筒（郵便番号, 住所及び氏名を明記した角形2号封筒に, 280円分の切手を貼付したもの）を出願書類に同封して請求してください。

なお, 出願時に試験成績開示を希望しない者は, 出願後に試験成績開示を希望することはできません。

また, 入学願書の「試験成績開示の希望の有無」欄に記入のない場合は, 試験成績開示を希望しないものとして取り扱います。

(3) 開示方法及び時期

平成23年8月1日以降に請求者本人へ郵送します。

注) 請求書類等に不備のある場合は, 開示できませんので, 8月末までに試験成績が届かない場合は, 入試室まで問い合わせてください。

4. 成績証明書

(1) 受験者本人の申請に基づき, 「学習成績」を閲覧することができます。

(2) 申請方法等

① 申請期間

平成23年7月22日(金)～8月31日(水)

② 申請方法

入試室窓口で申請してください。

13 留 意 事 項

1. 受験票に記載の「受験者心得」を熟読しておくとともに, 学力検査, 面接には, 必ず受験票を持参してください。
2. 受験者の自動車及びオートバイによる入構は, 認めません。
3. 転入学合格者は, 平成24年3月において, 入学前の大学で修得した単位が62単位未満の場合は, 入学を許可しません。

14 問い合わせ先

この学生募集要項に関する照会は、郵便又は電話等で行ってください。郵便で照会を行うときは、郵便番号、住所及び氏名を明記の上、郵便切手を貼った返信用封筒を同封してください。

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町^{ごきそちよう}
名古屋工業大学 入試室
電 話 052 (735) 5083
F A X 052 (735) 5084
Eメール nit.nyushi@adm.nitech.ac.jp

別表

物理・化学の指定・選択，専門試験科目

募集学科	教育プログラム	物理, 化学 の 指定・選択	専門試験科目(筆記)
生命・物質工学科	物質化学系プログラム	選 択	物質化学, 生物生命, 生体材料に関する内容について8問から4問を選択
	生物生命系プログラム		
	生体材料系プログラム		
環境材料工学科	セラミックス系プログラム	選 択	セラミックス及び金属材料に関する基礎的分野
	材料機能系プログラム		
機械工学科	計測系プログラム	物理指定	力学, 流体力学, 制御工学, 応用数学, 電気工学の5科目から3科目選択
	機構系プログラム	物理指定	材料力学, 熱力学, 流体力学, 制御工学の4科目から3科目選択
	エネルギー系プログラム		
電気電子工学科	機能電子系プログラム	選 択	電気磁気学, 電気回路に関する内容
	エネルギーデザイン系プログラム		
	通信系プログラム		
情報工学科	ネットワーク系プログラム	物理指定	情報の表現, 計算機の基礎, 論理回路, プログラミング基礎, 情報理論に関する内容
	知能系プログラム		
	メディア系プログラム		
建築・デザイン工学科	建築系プログラム	選 択	略設計及び専門試験(建築計画, 建築構造, 材料・環境)
	デザイン系プログラム	選 択	デザイン(現代, 歴史, 理論)の専門分野に関する論述及び小課題
都市社会工学科	環境都市系プログラム	選 択	応用力学, 水理学, 土木計画学, コンクリート工学, 土質力学の基礎に関する内容
	経営システム系プログラム	選 択	数理計画, 確率統計, 人間工学, 経営基礎の4問から2問選択

学 科 紹 介

I 生命・物質工学科

物質化学系、生物生命系、生体材料系の3つの教育プログラムのもとで、生命機能発現の機構解明とこれに基づく新たな知的材料発想に加え、生命を支援する材料、環境にやさしい機能・構造材料の創製や情報およびエネルギー循環に関わる材料設計などの教育を行い、生命・物質に関わる産業発展において中核を担う人材を育成します。

○ 物質化学系プログラム：

物質の構造と性質の真の相関を分子レベルで理解した上で、資源・エネルギー循環における地球規模の調和について学ぶことにより、環境との調和を目指した「ものづくり」の先端科学技術の創製について学びます。

○ 生物生命系プログラム：

生命機能を分子のレベルで解明することにより、生命機能に学んだ高効率な物質生産・情報伝達・エネルギー変換に関する工学システムの創製について学びます。

○ 生体材料系プログラム：

生体材料の精密に制御された構造が導き出す機能やその驚くべき物性との相関について学ぶことにより、生命や生体の様々な機能を支援または模倣する材料システムの創製について学びます。

II 環境材料工学科

材料工学は、環境と調和した“ものづくり”におけるキーテクノロジーです。セラミックス系及び材料機能系の2つの教育プログラムの下で、物理と化学を統合した材料科学の視点から、材料の構造や機能について幅広く学び、材料の設計と開発に関する基礎を修得します。

○ セラミックス系プログラム：

環境に調和するセラミック材料科学の構築という地球的視野と、地域産業への貢献という地域的使命とを結びつけた教育によって、世界に通用するような人材を育成する。

○ 材料機能系プログラム：

本プログラムでは、材料の基本要素である<構造><物性><機能><プロセス>を統合的に理解し、種々の工学システムにおいて材料機能の設計・開発に応用できる能力の獲得を目指している。

III 機械工学科

地球環境と調和がとれた“人にやさしい機械づくり”を目指します。計測系、機構系、エネルギー系の3つの教育プログラムの下で、物事を精密に測るための科学と技術を学び、必要な作用を正しく行わせる機械を考案し、それを動かすためのエネルギーを効率よくかつ適切に利用するための基礎知識と技術を兼ね備えた技術者を養成します。

○ 計測系プログラム：

機械工学を始めとする高度化した現代技術を維持・発展させ、さらに次世代新技術を創成するためには、計測と予測に関する深く豊かな知識と技術が必要とされます。本プログラムでは、物理計測工学と計算物理工学を主軸として、電気電子計測、光計測、量子計測、制御技術、シミュレーション技術、さらにこれらを支える物理・数学の基礎を学びます。

○ 機構系プログラム：

力学原理，エネルギー，情報を利用しやすい形態に変換する機械の機構や機能の深い理解と実践能力を修得します。力学，材料，加工，制御，自動化の知識を活用して，高性能・高精度の先進機器の開発，設計，製造を行う先導的な技術者を養成します。

○ エネルギー系プログラム：

エネルギーシステム（資源の変換・輸送・貯蔵・利用）において中心となる熱エネルギーと流体エネルギーの専門基礎知識を修得します。そしてエネルギー変換・制御及びエネルギーの環境についての知識・技術を活用して，先進機器の開発，設計，製造及びエネルギー開発を行う先導的な技術者を養成します。

IV 電気電子工学科

本学科の編入学・転入学者は，在学生と同等あるいはそれ以上の学力であることを基本方針としています。従って，原則として，電気電子工学関連の学科相当出身者を入学志願の前提とします。

高度に集積されたエレクトロニクス技術，要素技術をインテグレーションするためのデザイン技術，高速・高信頼の情報伝送を実現するエレクトロニクス技術を中心に，機能電子系，エネルギーデザイン系，通信系の3つの教育プログラムの下で，電気・電子・通信の基礎知識と専門応用へと展開できる技術などを理論と実験・演習により修得します。

○ 機能電子系プログラム：

発展を続ける電子科学技術に対処でき，創造的に電子科学技術を発展させる人材を育成することを目的としています。また，エレクトロニクスの科学的基礎と基礎技術を体系的に教授し，社会に急速に広がる多様な問題に，エレクトロニクスを通じて地球的視野から創造的能力を発揮できる工学人を育成します。

○ エネルギーデザイン系プログラム：

ネットワーク社会において，世界的な視野に立つエネルギーマネジメントの観点から，電気・電子・情報工学の要素技術をシステムチックにインテグレーションするためのデザイン能力を発揮する技術者の育成を目的とします。こうした教育理念に基づいて，「ものづくり」，「未来づくり」のための確実な実力が身につくよう，電気エネルギー変換，システム制御，メカトロニクスなどを基軸としたカリキュラムを精選し，系統的かつ効果的に教育を行います。

○ 通信系プログラム：

電気電子工学の確固とした基盤の上に立ちながら技術動向を的確に捉え，情報通信社会における広く多様な問題に，国際的な見地から柔軟に対応し創造的かつ独創的能力を発揮する通信工学技術者を育成することを目的とします。こうした教育理念のもとで，通信理論，通信システム，デジタル回路，電磁波など，通信工学の知識を基軸としたエレクトロニクス技術（物理現象を扱う技術）に関する基礎知識を修得し，将来の通信工学を通じた「ものづくり」，「未来づくり」のための確実な実力が身につくよう，カリキュラムを精選し，系統的かつ効果的に教育を行います。

V 情報工学科

ネットワーク系，知能系，メディア系の3つの教育プログラムの下で，現代社会を支える情報分野の基礎技術を学びます。より高度な将来の情報化社会の実現に不可欠な情報ネットワーク技術，知能情報技術，メディア情報技術などを理論と演習により修得します。

○ **ネットワーク系プログラム：**

現存の携帯電話やインターネットだけではなく、今後発展が期待される新たな情報ネットワークシステムの構築に携わることのできる人材や、研究開発をすることのできる人材を育成します。このため、コンピュータや情報ネットワークの基本構成を学ぶとともに、これらをベースとしたメディア通信技術やデータ管理技術を学ぶことにより、次世代の情報ネットワークシステムを構築するための知識と技術を修得することを目指します。

○ **知能系プログラム：**

高度な知識産業社会を実現するためには、人工知能のようにひとが持つ高度な知能や知識処理をコンピュータにより実現し応用することが不可欠であり、このような高度な知識情報処理システムを創造し研究開発できる人材教育を目指します。そのため、知識の表現法や推論法、より高次の機能である言語情報処理などの理論を学ぶとともに、これらに基づく知能情報システムの実現法を修得します。

○ **メディア系プログラム：**

楽しさ・快適さ・満足感・安心感などのような、人の感性や感覚に基づく新しいマルチメディア情報システムを創造し、開発できる人材の育成を目指します。このため、ひとが扱う情報である、画像、映像、音声、音楽、言語などのメディア情報処理技術を学ぶとともに、人の感性や感覚を解析・生成・評価するための理論やコンピュータによる実現法を修得します。

VI 建築・デザイン工学科

建築系及びデザイン系の2つの教育プログラムの下で、より良い社会の実現に向けて、人間活動の創造的所産を創出するための計画と方法を学びます。具体的には、意匠・計画・材料・構造・環境といった工学の基本としての知識・技術の修得を基礎としつつ、建築・家具・プロダクトデザイン・情報技術などの創造力を養成します。

○ **建築系プログラム：**

建築学は工学と芸術の両面を有する学問であるため、工学部教育としての工学・技術に関する学問のみならず、芸術・文化・社会に関する知識まで幅広く修得します。

○ **デザイン系プログラム：**

デザインとは人間の理想や思想を形で表現・実現する方途であるため、人間性や社会性・芸術性をも勘案するプロセスや発想法を学び、またそれを的確に実現するための技法を修得します。

VII 都市社会工学科

環境都市系及び経営システム系の2つの教育プログラムの下で、都市と社会を構成する仕組みを企画、設計、建設、維持、管理、評価、改善するための技術と手法を学びます。都市と社会及び産業に関わる諸問題を解決できるエンジニアの養成を目指します。

○ **環境都市系プログラム：**

よりよい社会基盤システムを創造し、マネジメントすることのできる、広い視野と高い技術力を持ったエンジニアを育成します。

○ **経営システム系プログラム：**

社会を支える多様なシステム（産業システム、経営システム、生産システム、防災システム、医療システムなど）をマネジメントできる、広い視野と優れた問題解決能力を持った人材を育成します。